

平成 30 年度 札幌市ひきこもり地域支援センター設置運營業務

札幌市ひきこもり地域支援センター 事業実績報告書

公益財団法人北海道精神保健推進協会

はじめに

公益財団法人北海道精神保健推進協会(以下「当法人」という)では札幌市より「札幌市ひきこもり地域支援センター」(以下「当センター」という)の運営委託を受け、平成 27 年 10 月より、ひきこもり当事者や家族等からの相談を受けるとともに、関係機関とのネットワーク構築及び一般市民等に対する普及啓発などを行ってきた。

今年度の開所日数は 243 日(平日)と出張無料相談会が 20 日(土曜・日曜)あり、計 263 日となり、平成 30 年度の新規相談は 334 件であった。新規相談が毎日 1 ケース以上の相談があったといえる。

今年度、アウトリーチ支援は昨年度の 17 件から 69 件へ約 4 倍と増加した。これは、コーディネーターが 3 名体制となった中で、ケースに応じて積極的にアウトリーチ支援を行った結果である。また、今年度より年 40 回(市内 10 区×4 回ずつ)に増回した出張無料相談会は計 84 件の相談に応じ、継続相談者についても出張無料相談会を活用するなどし、相談者への利便性を図った。

支援機関の連携については、既存の連絡協議会等を活用し、地域の関係機関(医療、保健、福祉、教育、就労等)との情報交換を行う等、各機関間で恒常的な連携が確保できるように努めた。状況に応じて、各支援機関へスーパーバイズ(指導・監督・助言)も行った。児童期に関しては、「さっぽろ子ども・若者地域支援協議会」のネットワークを活用した。

居場所「よりどころ」事業への相談員(専門職)派遣も行い、「よりどころから相談へ」、「相談からよりどころへ」、親・当事者それぞれのケースで状況に応じて活用ができた。今後も大きな社会資源の 1 つとして活用していきたい。

相談支援の流れは以下のとおりになっている。

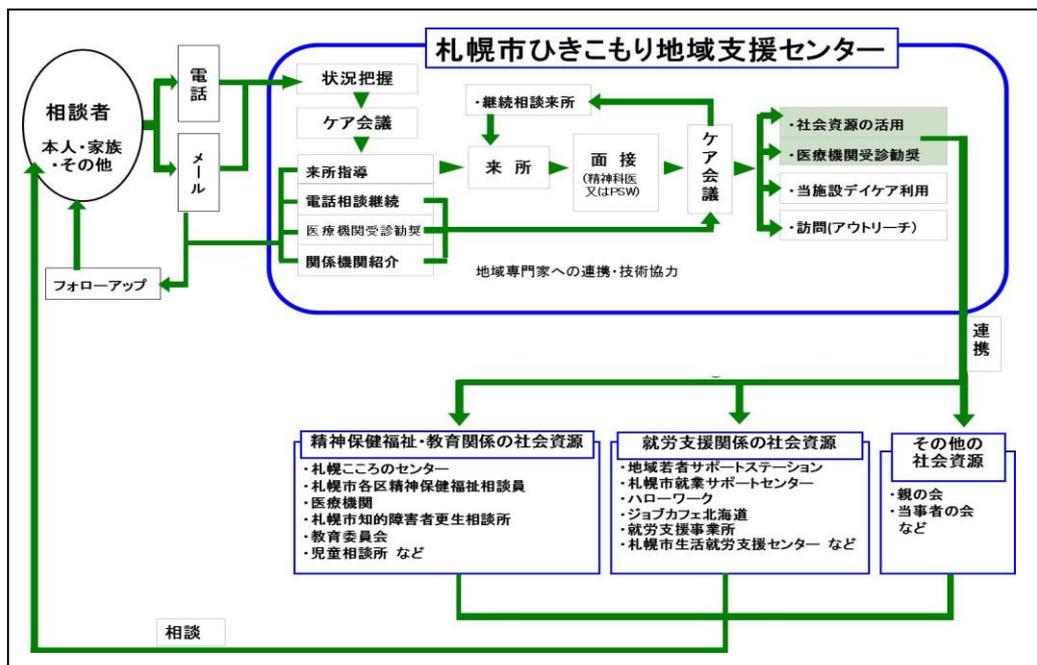


図 1 相談支援の流れ

1. 相談支援実施状況

平成 30 年度の支援実績は以下のとおりである。

(1) 相談支援概要

ア. 相談件数 (単位:件)

相談件数計	1,473
新規相談	334
継続相談	1,139

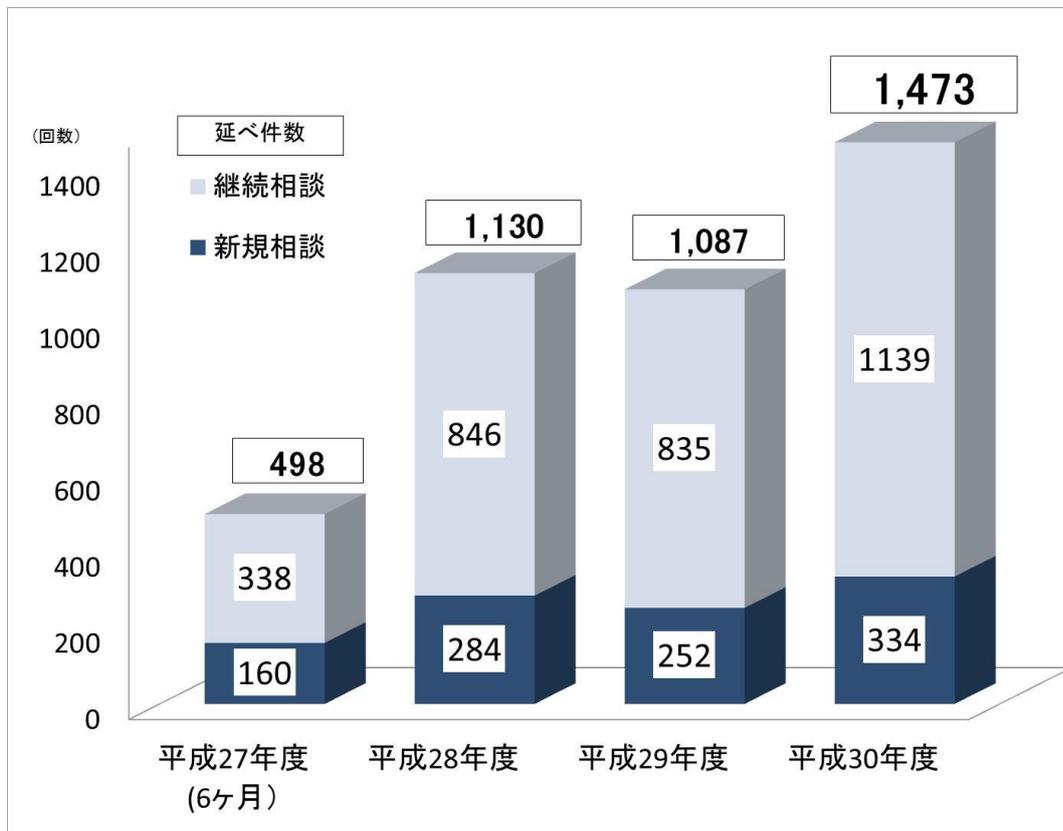


図 2 相談件数の推移 (年度別)

- 当年度の相談延べ件数は、1,473 件であり、新規相談者は 334 名であった。昨年度と比較すると、新規相談件数・継続相談はともに約 1.3 倍の件数になっている。
- 延べ件数を開所日数 (263 日) で割ると、一日あたり約 5.6 件、相談を受けていることになり、平成 29 年度の一日あたり約 4.4 件より増加している。

イ. 相談方法別内訳

	新規	継続	総計	構成比(%)
電話	226	159	385	24.4%
来所	21	472	493	31.2%
メール	37	405	442	28.0%
アウトリーチ	2	67	69	4.4%
出張相談等	48	36	84	5.3%
小計	334	1139	1473	
連携	-	106	106	6.7%
ケア会議	-	-	-	-
小計	-	106	106	
総計	334	1245	1579	100%

- 新規相談では「電話」が最も多く、ついで「出張相談」「メール」「来所」の順に多い。
- 「ケア会議」に件数を計上はしていないが、必要に応じて全ての相談ケースにおいて、日頃から各相談員同士で支援方法についてケース検討・会議を実施している。
- 「アウトリーチ」訪問支援については慎重に行う必要があり、本人及び家族へのアセスメントを十分に行ったうえで実施している。
- 「出張相談等」の開催区は下記の表のとおりである。白石区が最も低い件数となっているが、当センターが白石区に所在しているため日常的に「来所」による相談が行いやすいことが理由として考えられる。各区の詳細は15ページに記載する。

開催区	件数
白石区	4
豊平区	5
厚別区	8
手稲区	7
清田区	9
中央区	12
東区	8
西区	11
南区	10
北区	10
計	84

ウ. 相談時間

(単位:回)

	0~ 15分未満	15~ 30分未満	30~ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時:分)	平均 所要時間
電話	123	125	117	20	385	151:50	24分
来所	2	6	53	432	493	535:33	1時間5分
メール	328	81	32	1	442	88:44	12分
アウトリーチ		1	9	59	69	89:55	1時間18分
連携	74	16	13	3	106	26:38	15分
出張相談等		4	16	64	84	91:1	1時間6分
計	527	233	240	579	1579	983:41	37分

エ. 延べ回数と実人数

1. 電話相談

延べ回数	385回
実人数	273名

2. 来所相談

延べ回数	493回
実人数	137名

3. メール相談

延べ回数	442回
実人数	69名

※延べ回数はメール受信及び返信の回数

4. アウトリーチ

延べ回数	69回
実人数	22名

5. 出張相談等

延べ回数	84回
実人数	65名

(2) 相談者の状況

ア. 相談者内訳

(単位:件)

	件数	構成比
本人	55	16.5%
父	37	11.1%
母	143	42.8%
両親	7	2.1%
兄弟姉妹等	54	16.2%
配偶者	4	1.2%
その他	33	9.9%
不明	1	0.3%
計	334	100%

○主な相談者は「父」「母」「両親」が56.0%を占める。「本人」からの相談も16.5%あり、72.5%が本人及び親からの相談であった。

○「兄弟姉妹等」の内訳は、兄弟姉妹が37件、他は義兄弟姉妹など親戚が17件である。

○「その他」の内訳は、他支援機関からのケース紹介や相談が29件、知人等が4件である。

イ. 相談方法別内訳

(単位:回)

	電話	来所	メール	アウトリーチ	出張相談等	計
本人	37	1	13		4	55
父	24		4		9	37
母	95	12	10	1	25	143
両親	1	2			4	7
兄弟姉妹等	35	6	7		6	54
配偶者	2		2			4
その他	31		1	1		33
不明	1					1
計	226	21	37	2	48	334

(3) 当事者の状況

ア. 当事者の年齢

(単位：人)

	男	女	不明	計	構成比
10歳未満	1			1	0.3%
10歳以上～15歳未満	9	4		13	3.9%
15歳以上～20歳未満	30	10	1	41	12.3%
20歳以上～30歳未満	73	26		99	29.6%
30歳以上～40歳未満	46	17		63	18.9%
40歳以上～50歳未満	45	24		69	20.7%
50歳以上～60歳未満	23	5		28	8.4%
60歳以上	3	5		8	2.4%
不明	7	4	1	12	3.6%
計	237	95	2	334	100%

○「20歳以上～30歳未満」が99名（29.6%）と「30歳以上～40歳未満」が63名（18.9%）を合わせて、162名（48.5%）となり、ひきこもり当事者の約5割を占める。

○「40歳以上」以降が全体の31.5%を占めており『ひきこもり』が若者だけの問題ではない事が分かる。

○最少年齢は5歳、最高年齢は77歳となっており、男性の平均は32.4歳、女性の平均は33.7歳、全体平均は32.7歳であった。

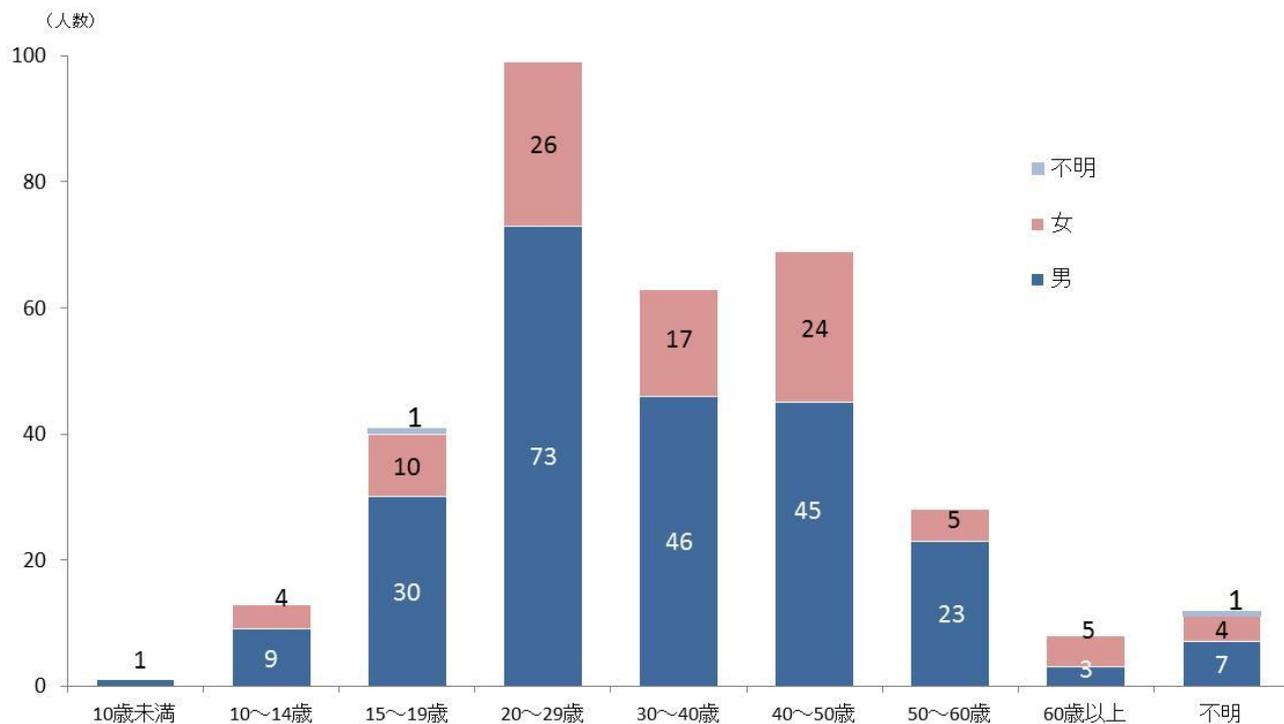


図3 当事者の年齢区分・性別状況

イ. 当事者の居住地区 (単位：件)

本人居住地	件数	構成比
札幌市内	63	18.9%
白石区	26	7.8%
豊平区	27	8.1%
厚別区	19	5.7%
手稲区	26	7.8%
清田区	16	4.8%
中央区	37	11.1%
東区	37	11.1%
西区	23	6.9%
南区	26	7.8%
北区	34	10.2%
計	334	100%

○当年度の相談のうち、件数では「札幌市内」が多く、相談の中で居住地区までは分らないが、札幌市内在住までは把握できた場合に計上している。

○件数では、次いで「中央区」・「東区」、「北区」の順に多い。

○各区からの相談が寄せられている。

(4) 相談目的

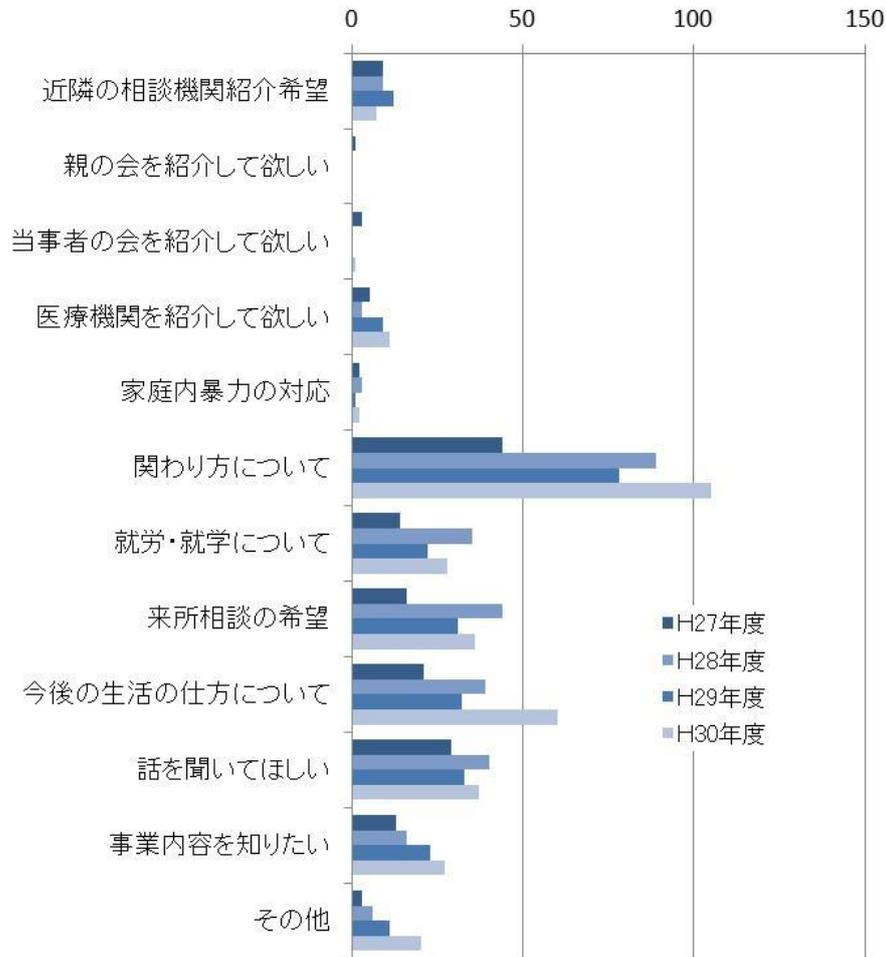


図4 相談目的内訳

○相談目的は多岐にわたっている。

○相談目的としては「関わり方について」の割合が依然として高い。

○「その他」には、「訪問や出張相談の希望」、「他機関からの照会」などがあげられる。

(5) 他機関への相談経験の有無

(単位：件)

	件数	構成比
相談経験あり	190	56.9%
相談経験なし	5	1.5%
不明	139	41.6%
計	334	100%

- 当センターへ相談する以前に、他機関へ相談している方が 190 件 (56.9%) であり、当センターに相談につながる前に、すでにひきこもり状態について相談していることが伺える。
- 「相談経験あり」の内訳は、医療機関(精神科)が最も多く (131 件)。若者サポートステーション(19 件)、医療機関(心療内科)が(16 件)、区役所 (15 件)、医療機関(他科)が(10 件)、生活就労支援センター(7 件)などがある。
- ※1 ケースにつき複数機関に相談していた場合を含む。
- 「相談経験あり」のうち、すでに医療機関にかかっているケース(計 157 件)が多く、診断名(精神疾患)が付いているケースもある。

(6) 相談の継続性

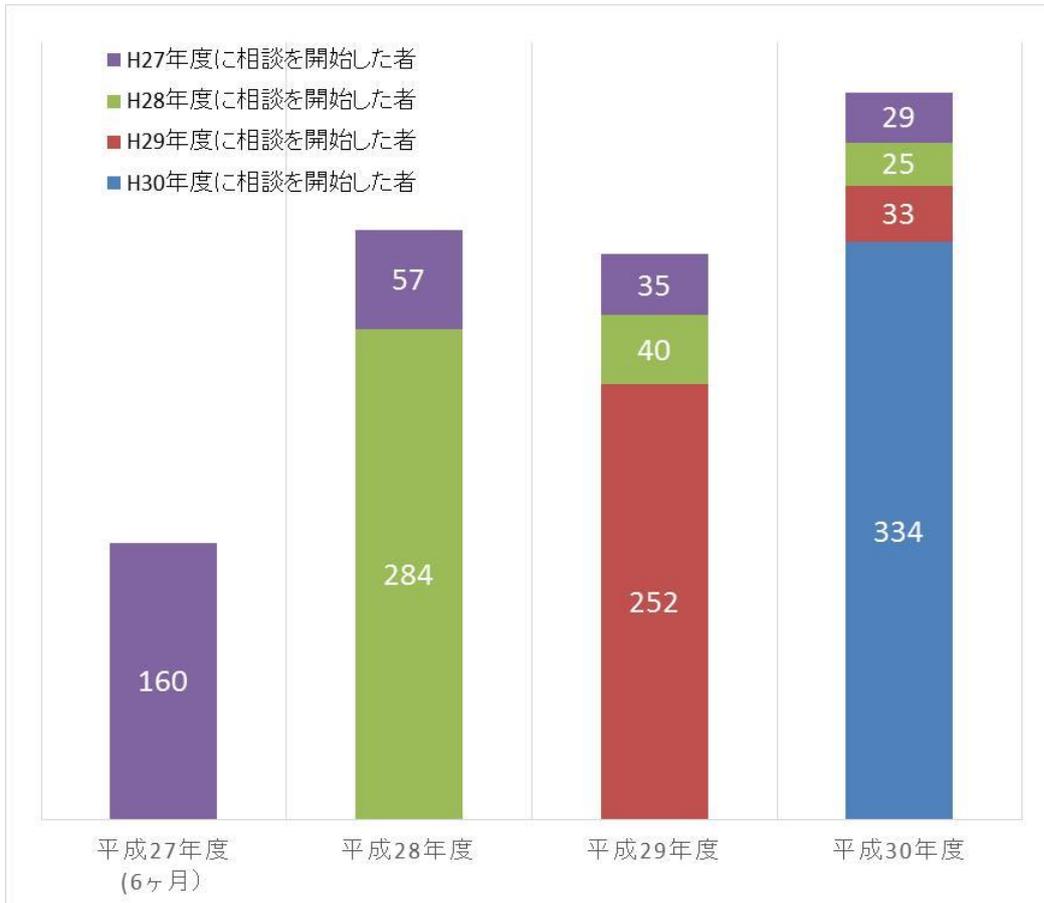


図5 相談開始年度別相談実人数（年度別）

- 「平成27年度の相談者のうち、29名が当年度にも相談を継続」し、「平成28年度の相談者のうち、25名が当年度にも相談を継続」、「平成29年度の相談者のうち、33名が当年度にも相談を継続」している。就労・就学・医療などに繋がり、ひきこもり状態から脱したケースもあるが、相談の継続をいかに図り、相談後の転帰を把握することが今後も課題と考えている。
- 当年度の相談のうち、相談後の転帰として「医療に繋がった(12件)、就労した(8件)、居場所等に繋がった(2件)、就労支援に繋がった(1件)」が把握できた限りにおいてあげられる。全てのケースにおいて、相談後の転帰を把握してはいないため、これ以外にも、就労・就学・医療等に繋がったケースはあると思われる。

(7) 初回相談転帰

転帰	件数
終了	164
助言終了	(129)
関係機関紹介	(17)
その他	(13)
受診勧奨	(4)
中断	(1)
継続	170
来所相談を希望・指導	(69)
電話・メール相談継続	(101)
総計	334

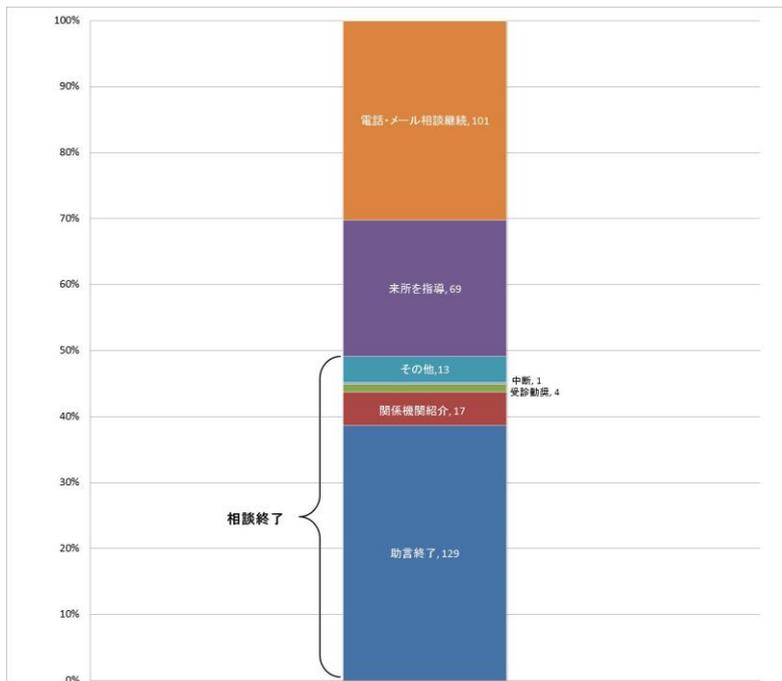


図 6 初回相談の転帰

- 初回相談で終了したケースは164件(49.1%)で、そのうち「助言終了」が129件であった。助言終了と判断した後も再度、電話相談等につながるケースもある。
- 初回相談で終了したケースには、「すでに医療機関に繋がっていたケース(主治医との関係に悩む、通院以外の外出が乏しい等)」「就労について(求職、復職等)」といった「ひきこもり」の相談ではないものもあった。
- 「電話・メール相談継続」が69件、「来所相談」に切り替えたのが101件、計123件(50.9%)が継続相談を要すると判断し対応した。初回相談から継続相談へいたったケースが5割を上回っている。

(8) 連携状況

他機関へのつなぎ	件数	構成比
さっぽろ若者サポートステーション	18	31.0%
ステップ	8	13.8%
医療機関（精神科）	7	12.1%
民間企業	7	12.1%
区役所	6	10.3%
医療機関（他科）	6	10.3%
警察	2	3.4%
介護事業所等	1	1.7%
保護観察所	1	1.7%
NPO 団体	1	1.7%
北広島市	1	1.7%
計	58	100%

他機関からのつなぎ	件数	構成比
さっぽろ若者サポートステーション	18	29.0%
区役所	7	11.3%
民間企業	4	6.5%
医療機関（他科）	4	6.5%
相談支援事業所	4	6.5%
札幌市生活就労支援センター	4	6.5%
医療機関（精神科）	4	6.5%
学校	4	6.5%
地域包括支援センター	3	4.8%
歯科・歯科協会等	3	4.8%
NPO 団体	2	3.2%
介護事業所等	1	1.6%
地域定着支援センター	1	1.6%
グループホーム	1	1.6%
自閉症・発達障がい支援センター	1	1.6%
社会福祉協議会	1	1.6%
計	62	100%

○当年度、他支援機関と連携したのは計 120 件ある。上記の表のとおり、当センターより「他支援機関へケース相談等を行ったのが 58 件」、「他支援機関からのケース相談や紹介が 62 件」ある。

○今後も、適切な支援機関と連携していくことが、ケースのひきこもり状態を脱することに繋がると考える。

(9) ひきこもり相談から当法人の精神科デイケアを活用したケース

ア. 精神科デイケアへの通所

	人数
平成 30 年度	3 名
平成 29 年度	3 名
平成 27 年度～平成 28 年度	9 名
計	15 名

○当年度、ひきこもり相談から当施設併設のデイケア通所につながったケースは3名であり、これまでの15名がデイケア通所につながり、現在も通所中である。

イ. ひきこもり外来状況

年 度	平成 27-28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	計
延べ回数	74 回	102 回	177 回	353 回
新規ケース	16 名	18 名	12 人	46 名

○当年度、ひきこもり相談からひきこもり外来につながったケースは12名であった。

○当年度は、ひきこもり外来を21名に対して行い、計177回の診察があった。

○外来に繋がった事により、『ひきこもり』状態から脱する一歩を踏み出したといえる。

○外来は、本人のみならず、父や母の同席での診察を行うこともある。

2. 支援ネットワークの構築等

関係機関に対する事業概要説明をはじめ、講演会等の講師派遣、研修会参加などにより各支援機関との情報共有、連携を行ってきた。状況は以下のとおりである。

(1) ネットワーク構築状況

月	日	実施内容	備考
5	17	北海道医療大学 大学院生「ひきこもり調査」インタビュー協力 (当センター当事者B氏 対応)	1名来所
5	23	札幌市子ども未来局 職員より問い合わせ(相談実数等)	電話
5	30	北海道通信社より 問い合わせ(子ども未来局経由) (事業報告書の詳細数値、および他グラフについて)	メール
6	19	北海道医療大学 大学院生「ひきこもり調査」インタビュー協力 (当センター当事者B氏 対応)	1名来所
6	22	北海道医療大学 大学院生「ひきこもり調査」インタビュー協力 (当センター当事者A氏 対応)	1名来所
7	26	札幌藻岩高等学校 教員6名来所(見学説明)	6名来所
10	26	北海道医療大学 大学院生「ひきこもり調査」インタビュー協力 (当センター当事者C氏 対応)	1名来所
11	5	札幌市西区相談員3名来所	3名来所
12	28	平成30年度厚生労働省社会福祉推進事業 「ひきこもり支援における行政機関と家族会の連携状況」調査	調査用紙
3	26	北海道医療大学 大学院生「ひきこもり調査」インタビュー協力 (当センター当事者D氏 対応)	1名来所

(2) ひきこもり出張無料相談会実施状況

当センターの通常相談の開設日は平日の日中である。相談者によっては、平日の日中は「仕事があり相談ができない」等、多様なニーズが考えられる。そのため、「ひきこもり出張無料相談会」は毎月4回程度（平日水曜日2回、土曜日・日曜日1回ずつ）13:30~16:00に実施した。

「ひきこもり出張無料相談会」の実施にあたっては、当センターのホームページ、新聞掲載、広報さっぽろ（誌面、地デジ、アプリ）、10区役所・10区民センターおよび他関係機関へのチラシ配布等で周知を行った。特に、広報誌(配布)への掲載は市民からの反響が大きかった。また、今年度は地下鉄構内の掲示板にポスターを掲示も行った。各回、申込状況に合わせて、相談員を調整した。今年度は「さっぽろ若者サポートステーション」との合同説明・相談会を2回実施した。

月	日	実施内容	備考
5	9	対象地区：厚別区 場 所：厚別区民センター	・相談4件
5	19	対象地区：豊平区 場 所：豊平区民センター	・相談1件
5	23	対象地区：白石区 場 所：白石南栄会館	・相談0件
5	27	対象地区：北区 場 所：北区民センター	・相談3件
6	13	対象地区：南区 場 所：南区役所	・相談3件
6	17	対象地区：中央区 場 所：中央区民センター	・相談4件
6	27	対象地区：西区 場 所：西区民センター	・相談3件
7	7	対象地区：厚別区 場 所：厚別区民センター	・相談1件
7	11	対象地区：手稲区 場 所：手稲区民センター	・相談2件
7	25	対象地区：清田区 場 所：清田区役所 (さっぽろ若者サポートステーションとの合同説明・相談会①)	・相談2件

7	29	対象地区：白石区 場 所：白石区民センター	・相談0件
8	8	対象地区：豊平区 場 所：豊平区民センター	・相談3件
8	18	対象地区：南区 場 所：南区民センター	・相談3件
8	22	対象地区：中央区 場 所：中央区民センター	・相談2件
8	26	対象地区：西区 場 所：西区民センター	・相談1件
9	8	対象地区：手稲区 場 所：手稲区民センター	・相談1件
9	12	対象地区：東区 場 所：東区民センター	・相談1件
9	26	対象地区：北区 場 所：北区民センター	・相談1件
9	30	対象地区：清田区 場 所：清田区役所	・相談2件
10	10	対象地区：西区 場 所：西区民センター	・相談5件
10	20	対象地区：中央区 場 所：中央区民センター	・相談3件
10	24	対象地区：白石区 場 所：白石区民センター	・相談2件
10	28	対象地区：豊平区 場 所：豊平区民センター	・相談0件
11	7	対象地区：中央区 場 所：中央区民センター (さっぽろ若者サポートステーションとの合同説明・相談会②)	・相談3件
11	9	対象地区：厚別区 場 所：厚別区民センター	・相談2件
11	17	対象地区：北区 場 所：北区民センター	・相談4件

1 1	2 5	対象地区：東区 場 所：東区民センター	・相談 3 件
1 2	8	対象地区：東区 場 所：東区民センター	・相談 3 件
1 2	1 2	対象地区：手稲区 場 所：手稲区民センター	・相談 2 件
1 2	2 6	対象地区：清田区 場 所：清田区役所	・相談 3 件
1	1 9	対象地区：白石区 場 所：白石区民センター	・相談 2 件
1	2 7	対象地区：厚別区 場 所：厚別区民センター	・相談 1 件
2	1 3	対象地区：豊平区 場 所：豊平区民センター	・相談 1 件
2	1 6	対象地区：清田区 場 所：清田区役所	・相談 2 件
2	2 4	対象地区：手稲区 場 所：手稲区民センター	・相談 2 件
2	2 7	対象地区：南区 場 所：南区民センター	・相談 3 件
3	1 3	対象地区：東区 場 所：東区民センター	・相談 1 件
3	1 6	対象地区：西区 場 所：西区民センター	・相談 2 件
3	2 4	対象地区：南区 場 所：南区民センター	・相談 1 件
3	2 7	対象地区：北区 場 所：北区民センター	・相談 2 件

○当年度の「ひきこもり出張無料相談会」は、相談数 84 件（うち新規相談 48 件）。

相談者数が最も多かった区は中央区。次いで西区、南区、北区となっている。

○当センター(白石区)から遠方の区や、交通機関等の利便性の高い中央区に相談数が多いことが窺える。

(3) ひきこもり支援関係者研修会実施状況

月	日	実施内容	備考
6	30	平成30年度ひきこもり支援機関関係職員等研修会 社会的ひきこもり支援のソリューション・フォーカスト・アプローチ (講義とグループワーク)	参加26名 (札幌市17名 市外9名)

(4) ひきこもり関連会議参加状況

月	日	実施内容	備考
6	22	さっぽろ子ども若者支援地域協議会 第1回実務者会議	2名参加
6	29	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会会議(横浜市)	1名参加
6	30	長期在宅ひきこもり当事者向け 家族アセスメントツール開発事業支援開発検討委員会第1回 (NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク主催)	1名参加
9	26	さっぽろ子ども若者支援地域協議会 第2回実務者会議	1名参加
11	19	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会会議(神戸市)	1名参加
12	1	長期在宅ひきこもり当事者向け 家族アセスメントツール開発事業支援開発検討委員会第2回 (NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク主催)	1名参加
12	5	さっぽろ子ども若者支援地域協議会 第3回実務者会議	1名参加
3	15	さっぽろ子ども若者支援地域協議会 第4回実務者会議及び代表者会議	1名参加

(5) 講師派遣状況等

月	日	実施内容	備考
5	16	札幌市生活就労支援センター「ステップ」職員勉強会	3名派遣
7	18	北海道ホームヘルプサービス研究大会 「メンタルフォロー～精神面からケアするには」 (※ひきこもりについて含む)	1名派遣
8	23	第56回全国大学保健管理協会 北海道地方研究会 「社会的ひきこもりとは何か～ケースの大まかなイメージ」	1名派遣
12	6	札幌市自立支援協議会 相談支援部会 研修会・グループワーク(質疑)	2名派遣
12	8	青森市 講演会「社会的ひきこもりの理解と支援方法」	1名派遣

(6) 外部研修参加状況等

月	日	実施内容	備考
9	29 30	手紙を活用したピア・アウトリーチ開発実務者予定者研修会 主催：NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	3名参加
3	8	DVD 購入 ・KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 全国大会 DVD (2017 年) ・地域におけるひきこもり支援研修会ガイドブック DVD (2017 年)	職員の研修 および普及 啓発の参考 のため

(7) ひきこもりサポーター養成研修事業

月	日	実施内容	備考
1	1	ひきこもりサポーター養成研修 「衝動性・攻撃性のリスクが高い社会的ひきこもりケースへの家族支援」 ～機能的家族支援の実際～	参加者 23 名 (札幌 10 名 市外 13 名)
		研修会撮影打ち合わせ (就労継続支援 B 型事業所 ここりか・プロダクション)	
		研修会撮影 (就労継続支援 B 型事業所 ここりか・プロダクション)	
		インターネット配信 (※講義部分のみ) 配信期間：12/25 (火)～2/1 (金)	
3	11	北海道新聞 (旭川支所) より ひきこもりサポーター派遣事業について問い合わせ	電話
3	18	平成 30 年度ひきこもりサポーター養成協議会	※設置要綱 別紙 1

○今年度は、「ひきこもりサポーター養成研修事業」における講義部分を研修後にインターネット配信を行った。

○なお、「ひきこもりサポーターの養成登録が本格化した場合にサポーター登録を希望するか」と希望調査も行っている。

※研修会申込 54 名

サポーター希望者：札幌市 33 名 (希望 11、検討中 9、しない 1、未記入 12)

札幌市外 21 名 (希望 10、検討中 10、未記入 3)

(8) 居場所「よりどころ」(親の会・当事者会)への専門職の派遣

NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークが実施している「よりどころ」に月2回参加し、精神保健福祉士等の専門職が相談に対応できるような体制を確保している。よりどころから新規相談に繋がったケースや、以前相談歴があり、よりどころがきっかけで再相談に至ったケースもあった。また、当センターの相談者が「親の会・当事者会」に繋がるケースもあり、社会資源の1つになっている。

月	日	実施内容	備考
6	25	よりどころ 親の会①	3名派遣
7	2	よりどころ 当事者会①	1名派遣
7	23	よりどころ 親の会②	1名派遣
8	6	よりどころ 当事者会②	1名派遣
8	20	よりどころ 親の会③	1名派遣
9	2	よりどころ 当事者会③	1名派遣
9	10	よりどころ 親の会④	1名派遣
10	1	よりどころ 当事者会④	1名派遣
10	22	よりどころ 親の会⑤	1名派遣
11	5	よりどころ 当事者会⑤	1名派遣
11	19	よりどころ 親の会⑥	1名派遣
12	3	よりどころ 当事者会⑥	1名派遣
12	17	よりどころ 親の会⑦	1名派遣
1	7	よりどころ 当事者会⑦	1名派遣
1	21	よりどころ 親の会⑧ ※心理教育を実施	3名派遣
2	4	よりどころ 当事者会⑧	1名派遣
2	18	よりどころ 親の会⑨ ※心理教育を実施	3名派遣
3	4	よりどころ 当事者・親の会 合同企画：ひきこもりカフェ in 札幌	1名派遣

3. 普及啓発

「ひきこもり」に関する基本的な知識や、姿勢、支援方法等、正しい知識の普及に努めた。

(1) 普及啓発実施状況

月	日	実施内容	備考
4	2	NHK 札幌放送局 放送部 (報道記者) 来所取材	1名来所
4	19	NHK ほっとニュース北海道 「中高年のひきこもり 8050 問題」放送	テレビ
4	24	「ひきこもり出張無料相談会」北海道新聞掲載	新聞掲載
4	27	「ひきこもり出張無料相談会」まんまる新聞掲載	新聞掲載
6	22	くらしの新聞社 まんまる新聞 相談先一覧に掲載	新聞掲載
6	27	「ひきこもり出張無料相談会」まんまる新聞掲載	新聞掲載
6	28	北海道社会福祉協議会 「2019 年度版 社会福祉手帳及び民生委員児童委員手帳 機関情報」掲載	機関誌
12	8	「ひきこもり出張無料相談会」フリッパー北東版 掲載	情報誌
12	25	「ひきペディア」支援機関として掲載 ※ひきこもり当事者・経験者運営による総合情報ポータルサイト	新聞掲載
12	26	「ひきこもり出張無料相談会」まんまる新聞掲載	情報掲載
2	13	北海道新聞 取材	1名来所
2	24	北海道新聞 「8050 問題について」 記事掲載	新聞掲載
3	19	HBC テレビ ひきこもり特集 放送	テレビ
-	-	「ひきこもり出張無料相談会」(計10回)7月~3月 北海道新聞「さっぽろ10区」掲載	新聞掲載
-	-	札幌市南区保健福祉課より問い合わせ ひきこもり支援センターリーフレット20部 郵送	郵送

(2) インターネット利用（ホームページ）による情報発信

「ひきこもり」に対する理解と支援団体、相談機関などとネットワークを構築するためホームページによる情報発信を行った。

ひきこもり相談 ホームページアクセス件数

年 度	件 数	備 考
平成 30 年度	20,320 件	
29 年度	19,876 件	
28 年度	17,297 件	
27 年度	7,665 件	(6 か月分)

○昨年度に比べ微増している。テレビ報道、各新聞報道の影響があると思われる。

(3) リーフレットについて

講演会や研修会などを活用し、ひきこもり本人および家族、関係者に向け配布した。

